

これまでの検討状況について

- 前回開催（9/25）の振り返り
- 作業部会での検討状況について

前回開催（9/25）の振り返り

背景

医療技術の高度化・複雑化に伴うガイドラインや根拠に基づく医療（EBM）の進展
医療の質に関する国民意識の変化に伴う質に関する情報の公表の高まり

医療の質の評価・公表等推進事業 (2010年度～2018年度)

- 9団体、約1000病院が参加
- 独自の臨床指標を作成し(計271指標)運用 など

- 団体間で情報共有する機会が限定的であるため、蓄積されたノウハウの共有が十分でない。
- 臨床指標の算出方法、臨床指標の評価分析方法、臨床指標の公表手法、人材養成手法、好事例の共有手法を含めたノウハウを共有し臨床指標の標準化を図ることが重要ではないか。

これまでの既存の取組を最大限に活かすことを前提とし、医療の質の評価・公表に積極的に取り組む病院団体等の協力を得ながら、「医療の質向上のための協議会」を立ち上げ、医療機関、病院団体等を支援する仕組みを構築する。

医療の質向上のための体制整備事業 (2019年度)

事業実施機関：公益財団法人日本医療機能評価機構

事業目的

再掲：2019年度第1回運営委員会資料抜粋
(2019年9月25日開催)

<事業目的>

- 現場の自主的な質改善活動を充実させる。
- 医療の質を可視化し信頼性を向上させる。

事業運営体制

再掲：2019年度第1回運営委員会資料抜粋
(2019年9月25日開催)

医療の質の評価・公表等推進事業
参加病院団体及び参加病院など

臨床指標を活用した質改善活動に
意欲ある医療関連施設など

医療の質向上のためのコンソーシアム (QIコンソーシアム)

医療の質向上のための活動の“場”

医療の質向上のための協議会

(事業実施機関：公益財団法人日本医療機能評価機構)

各種施策の企画・検討、実施及び「医療の質向上のためのコンソーシアム」の運営

厚生労働省医政局

(「医療の質向上のための体制整備事業」事業管理者)

取組の共有・普及

- 好事例の収集・調査分析を行い、成功要因を基に改善モデルを作成（手引き、事例集など）
- コンソーシアムへの参加を通じて、取組の共有・普及を図るなど強固なネットワークの構築

人材育成

- 臨床指標を使いこなせる人材に必要な知識・スキルを整理し、コンテンツを設定
- 上記に必要な養成カリキュラムの検討及び養成セミナーの試行開催

活動の“場”の提供

医療の質向上のためのコンソーシアムの発足・運営

臨床指標の標準化、公表

- 各団体の取組を踏まえ、臨床指標の標準化に向けたあり方及び標準化指標の選定方法等を検討
- 臨床指標の評価及び公表のあり方について検討

臨床指標の評価・分析

- 臨床指標に関する各病院の取組を支援するための相談窓口の設置
- 臨床指標の定義に関する最新情報の入手及び公開
- 管理者層等を対象としたセミナーの開催

事業基盤の整備

- 安定した事業運営（事業継続性）
- 質改善意欲を高めるための仕組づくり
- 魅力ある事業に向けた工夫（参加医療機関の拡大）

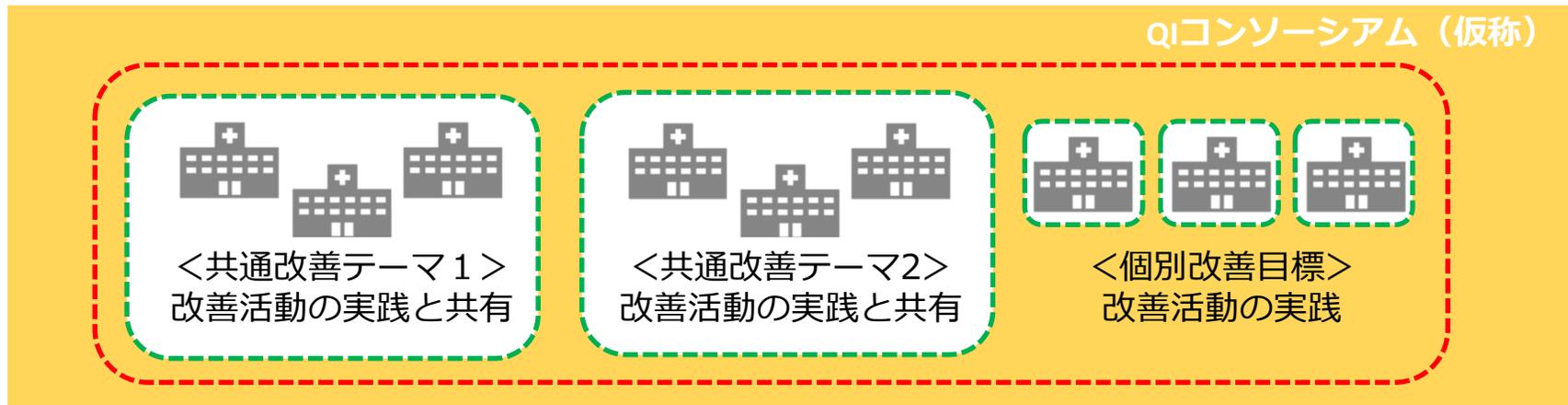
厚生労働省「医療の質向上のための体制整備事業実施要綱(医政発0401第6号平成31年4月1日)」をもとに作成。

事業目的と実施プロジェクト

再掲：2019年度第1回運営委員会資料抜粋
(2019年9月25日開催)

事業目的

- ①現場の自主的な質改善活動を充実させる。→ “QI活用支援プロジェクト”
②医療の質を可視化し信頼性を向上させる。→ “QI標準化プロジェクト”



QI活用支援プロジェクト

- 取組の共有・普及（好事例の共有、手引きの作成）
- 人材育成
- 臨床指標の評価・分析支援

QI標準化プロジェクト

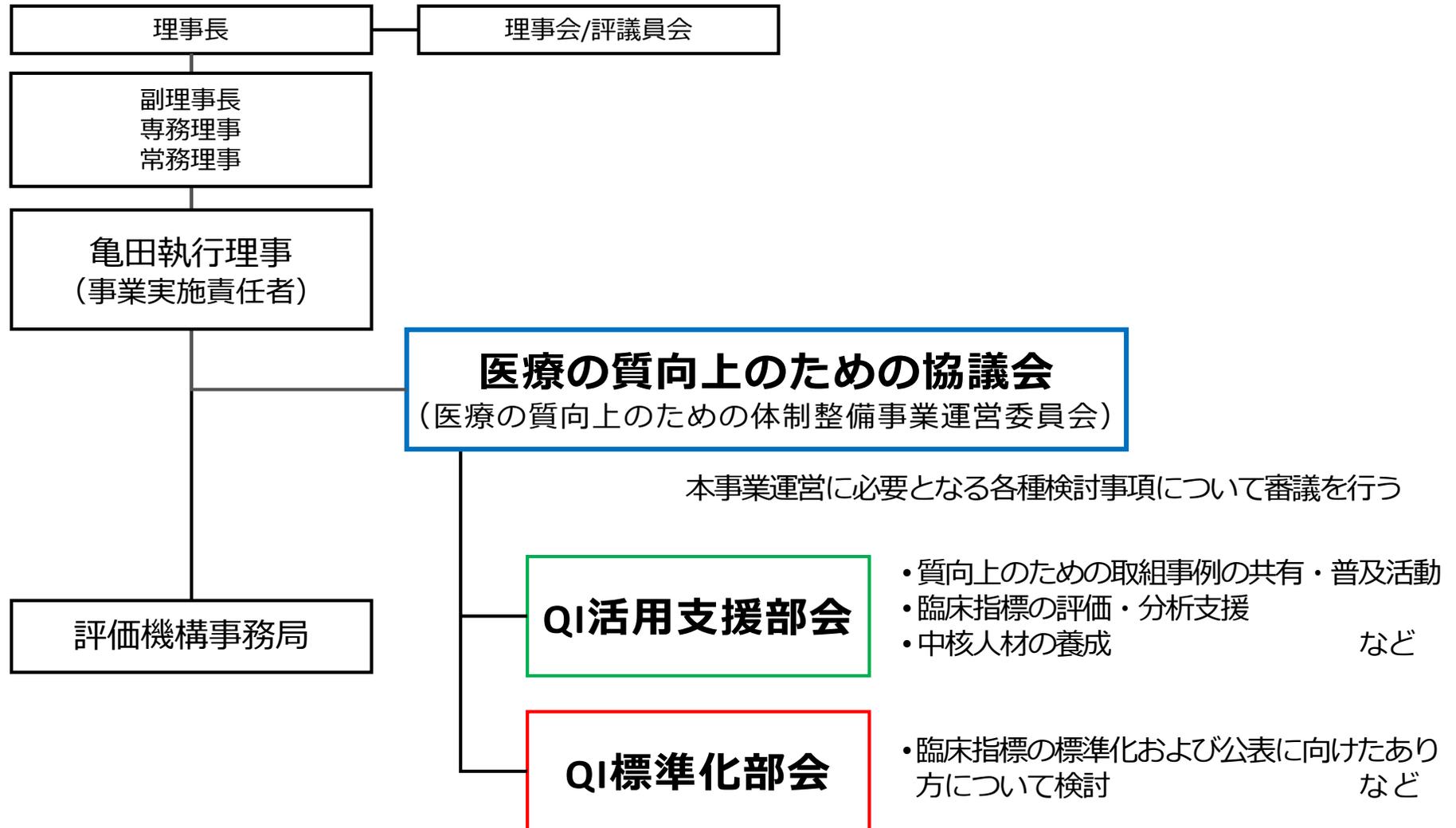
- 臨床指標の標準化
- 公表のあり方の検討

医療の質向上のための協議会

活用支援プロジェクトにて対応 標準化プロジェクトにて対応

運営事務局体制 (日本医療機能評価機構)

再掲：2019年度第1回運営委員会資料抜粋
(2019年9月25日開催)



前回（9/25開催）の主なご意見

各団体におけるこれまでの実績

- 改善事例は相当数を収集できているが**成功要因等については調査分析が行えていない。**
- 指標におけるデータ収集は多くの病院に協力いただいているが、データの活用状況までは十分な把握ができていない。本事業で**指標の活用方法が共有できること**を期待したい。
- 事務局の運営負担が大きいので、共通化できる点については今後検討をしていきたい。

指標について

- データ取得に**手間はかかるが重要な指標は存在する。負担なくデータ取得が可能となるよう、将来的な基盤整備についても論点とすべき**である。
- データサイエンシスの専門家がいないと正当なデータなのか、そうでないのか判断が難しい面もある。本事業ではそのような観点を含めた人材育成となるであろう。
- これまで複数年かけて運用をしてきたので、**拙速な対応を病院へ求めることは避けて欲しい。**
- 標準化はエビデンス、信頼性など**病院の質に繋がるという納得感のある指標を検討**して欲しい。
- **米国では徐々に指標の数を減らす動きがあるので、そのような視点も検討**には必要である。

公表について

- 指標が持つ信頼性により誤った情報が伝播する可能性もあるので、**慎重に議論を進めて欲しい。**
- 公表した結果、社会がそれをどのように評価していくのかという部分に踏み込むことも必要である。

その他

- **“質指標”なのか“臨床指標”なのか、用語の定義は明確にしておく必要がある。**
- 状況は適時に報告し、意見等を吸い上げるなどの運用をして欲しい。

作業部会での検討状況について

検討実績 (協議会, QI活用支援部会, QI標準化部会)

	会議開催日等	主な議題
医療の質向上のための協議会 (医療の質向上のための体制整備事業運営委員会)	2019年9月25日	<input type="checkbox"/> 本事業の目的及び内容について <input type="checkbox"/> 部会の設置及び今後の進め方について
	2019年12月16日 ～26日	<input type="checkbox"/> 各委員へ作業部会での検討状況等を報告 <input type="checkbox"/> 設置趣意書の修正版について報告
	2020年2月13日	<input type="checkbox"/> 作業部会での検討状況について <input type="checkbox"/> 次年度事業計画について
合同部会 (QI活用支援・QI標準化)	2019年10月31日	<input type="checkbox"/> 本事業の目的及び事業内容について <input type="checkbox"/> 今後の進め方について
	2019年11月28日	<input type="checkbox"/> 今後の作業の流れと計画について <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマの設定について ・ 医療の質指標の検討・作成について ・ 質改善実践マニュアルの検討・作成について ・ 成果物の作成と今後の予定について
QI活用支援部会	2020年2月6日	<input type="checkbox"/> 今年度の成果物作成に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・ 成果物作成に向けた作業方針 ・ パイロット事業の進め方 ・ 取組事例の共有 (病院/運営事務局)
	2020年2月26日	<調整中>
QI標準化部会	2020年1月16日	<input type="checkbox"/> 今年度の成果物作成に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマに応じた医療の質指標 (最終化イメージ) ・ 成果物作成に向けた作業方針
	2020年1月28日	<input type="checkbox"/> テーマに応じた医療の質指標について <ul style="list-style-type: none"> ・ カテゴリー、タグの考え方及び付与 (案) の最終化 ・ パイロット事業実施に向けた対象指標の考え方 ・ 既存指標が存在しない場合の対応

事業進捗 (2020年2月13日現在)

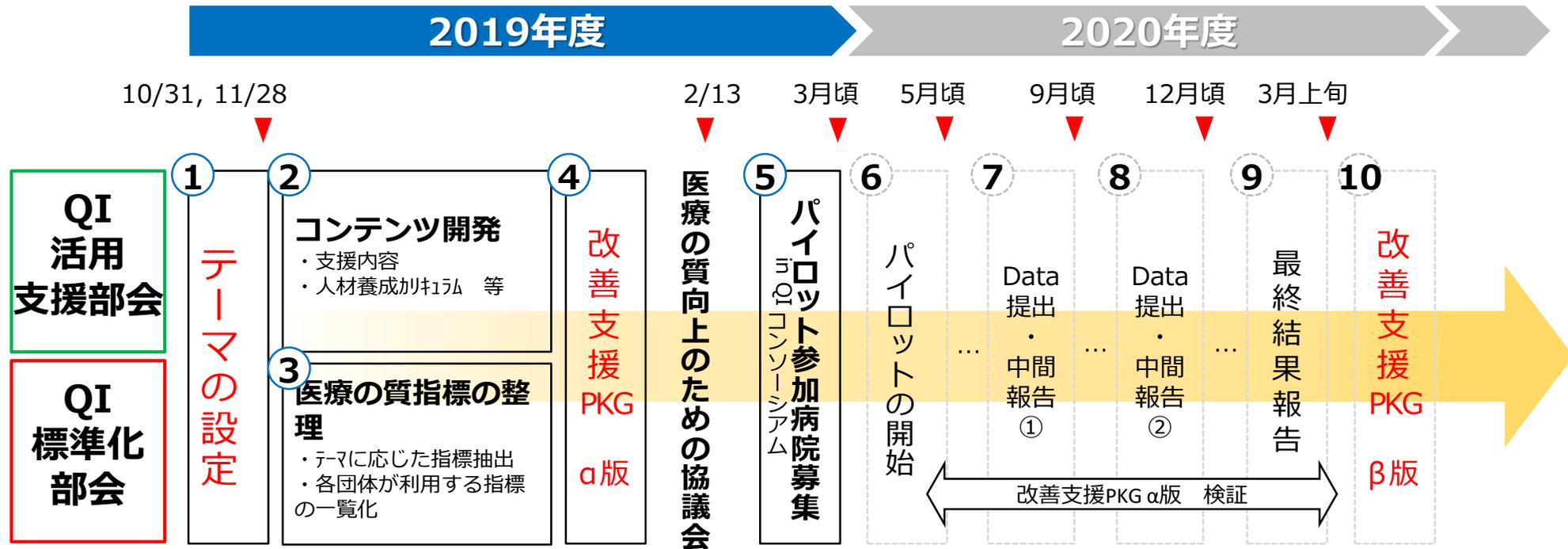
事業内容	#	検討事項	進捗状況	備考
a 取組の共有・普及	1	好事例の収集・調査分析を行い、成功要因を基に改善モデルを作成（手引き、事例集など）	対応中	
	2	コンファレンスへの参加を通じて、取組の共有・普及を図るなど強固なネットワークの構築	対応中	コンファレンスの開催（3/12予定）
b 人材育成	3	臨床指標を使いこなせる人材に必要な知識・スキルを整理し、コンピテンシーを設定	対応中	
	4	上記に必要な養成カリキュラムの検討及び養成セミナーの試行開催	未着手	次年度対応
c 臨床指標の標準化, 公表	5	各団体の取組を踏まえ、臨床指標の標準化に向けたあり方及び標準化指標の選定方法等を検討	対応中	
	6	臨床指標の評価及び公表のあり方について検討	未着手	次年度対応
d 臨床指標の評価・分析	7	臨床指標に関する各病院の取組を支援するための相談窓口の設置	未着手	次年度対応
	8	臨床指標の定義に関する最新情報の入手及び公開	対応中	
	9	管理者層等を対象としたセミナーの開催	未着手	次年度対応
e 事業基盤の整備			対応中	

厚生労働省「医療の質向上のための体制整備事業実施要綱(医政発0401第6号平成31年4月1日)」をもとに作成。

想定成果物 (総称：改善支援パッケージ)

部会	想定成果物	主な利用者
QI活用 支援	1. 質改善実践マニュアル ～質改善活動の考え方、進め方などを纏めたマニュアル～	病院
	2. 質改善支援運用マニュアル ～質改善活動を支援するために必要な対応マニュアル～	病院団体等事務局
	3. 質改善活動を実践できる人材（チーム）の 養成カリキュラム・プログラム	病院 ／病院団体等事務局
QI標準化	1. テーマに応じた医療の質指標 ～テーマを定期的にモニターする指標の検討～	病院 ／病院団体等事務局
	2. 指標検討・策定ガイドライン ～質改善をモニターするために必要な指標を既存指標から抽出し抽出方法を纏める～	病院 ／病院団体等事務局
	3. 既存指標の整理 ～既存指標の一覧化に向けた整理（Webサイトでの公開）～	病院

改善支援パッケージの開発, 運用について (当初案)



①最近のtopics等を元にテーマを設定 (合同部会)。

②質改善活動を支援するための方法論等、コンテンツの開発 (人材養成加訓を含む)。

③テーマ及び各団体が利用する医療の質指標を整理。

④質改善活動を支援するための方法論+医療の質指標をパッケージとして取り纏める (改善支援PKG α版)。

⑤改善支援PKG α版をもとにパイロットへの参加病院団体、病院を募集。

⑥~⑩パイロットに参加する病院団体、病院への説明会及び改善目標・計画立案の支援~定期的なData提出及び改善支援~最終結果の共有。及び適用したPKGの検証/更新 (β版へ)

今年度のテーマ設定における考え方

前提条件 (適用範囲)

- OECD Conceptual Frameworkを活用する。
- 病院団体を中心とした事業であるため、今年度は“診断・治療（医療機関（病院））”をテーマの適用範囲とする。

検討の ベースライン

- 現在、福井班（共通QIセット）や各病院団体で多くの指標が提案、運用されており、それらを有効に活用できるテーマが望ましい。
- 今年度は複数団体で取組実績がある共通QIセットを一定程度カバーできるようなテーマを設定する。

テーマの 検討

- 入院患者のケア（内科系）、入院患者のケア（外科系）、外来患者のケアを対象とすると多くの領域がカバーできる。
- 多職種チームの取組として“脳卒中 and/or 急性心筋梗塞”、“人工股関節置換術（THA）”、“糖尿病”及び組織横断的な取組として“周術期の医療安全”などがあげられる。

今年度の検討テーマ

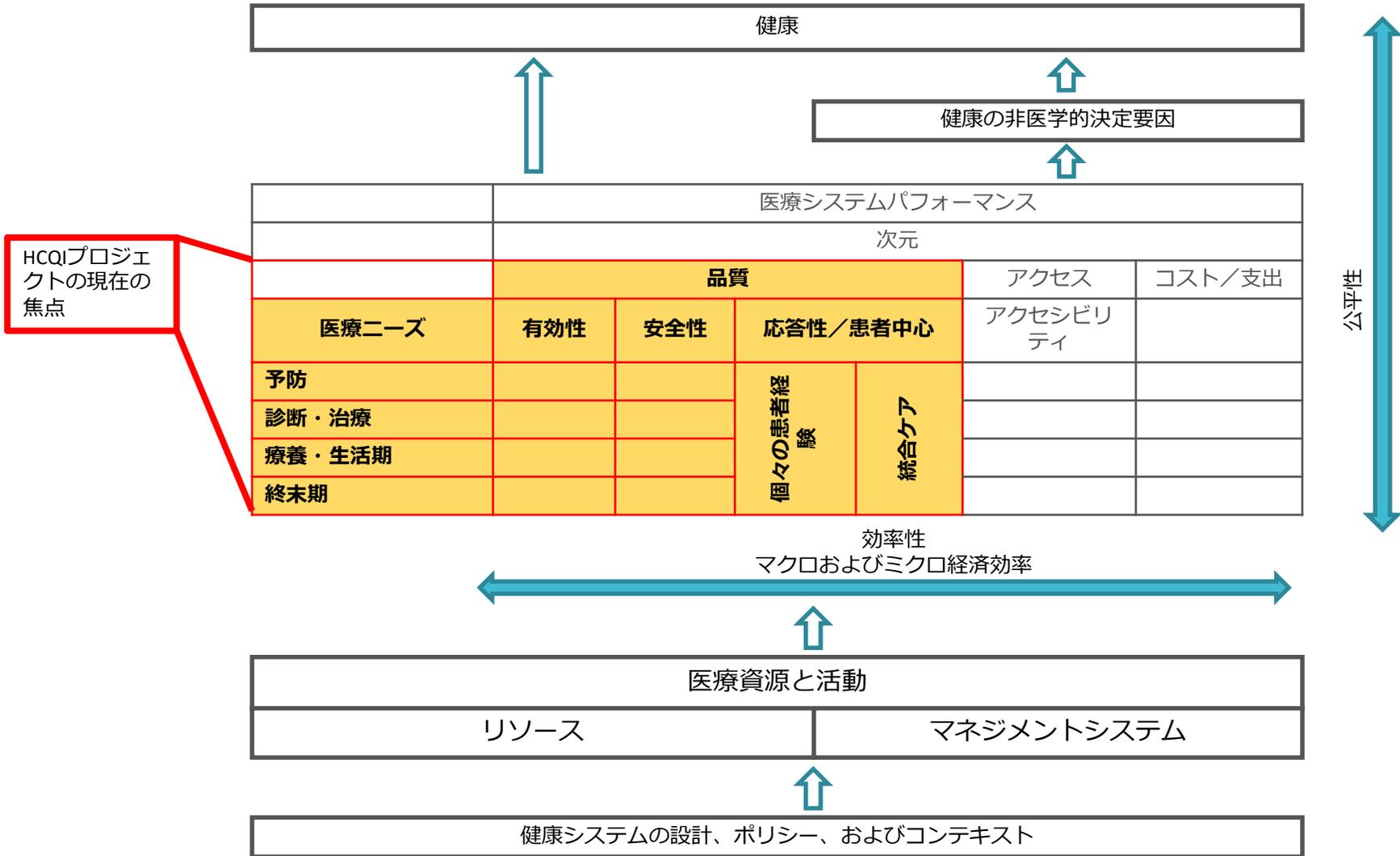
糖尿病

脳卒中

人工股関節置換術
(THA)

参考: OECD Conceptual Framework

再掲：2019年度第1回運営委員会資料一部改変
(2019年9月25日開催)



参考: 共通QIセット

平成28～30年度 厚生労働科学研究

(研究代表者: 福井 次矢)

『医療の質の評価・公表と医療情報提供の推進に関する研究』【参考資料】

共通QIセット: 23種類の36指標

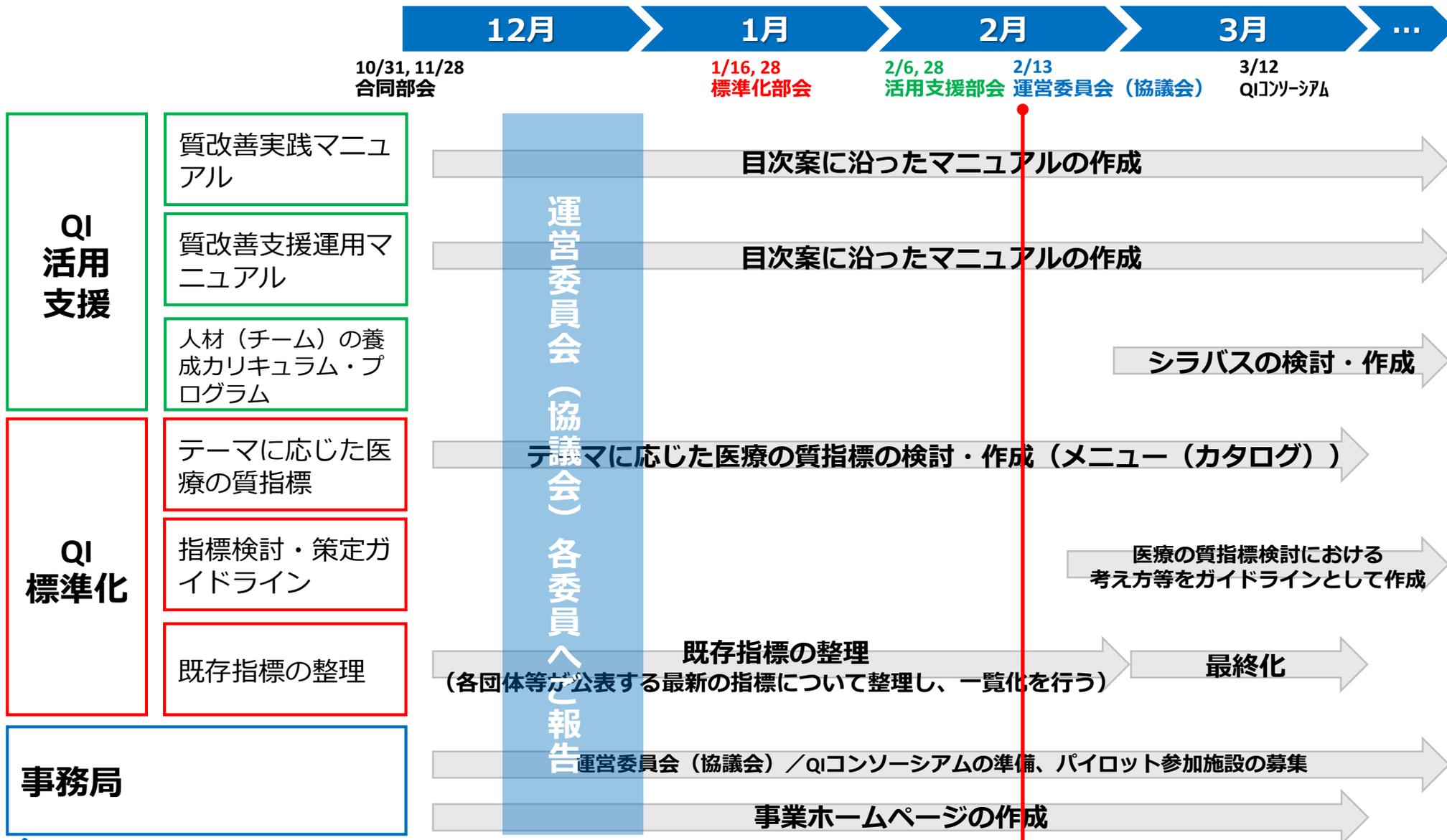
平成28年度厚労科研補助金

医療の質指標に関する国内外レビュー及びより効果的な取組に関する研究(研究代表者 福井次矢)

- ①入院患者満足度 ②外来患者満足度 ③職員満足度 ④転倒・転落発生率
- ⑤インシデント・アクシデント発生率 ⑥褥瘡発生率
- ⑦中心静脈カテーテル挿入時の気胸発生率 ⑧カンサーボードの開催
- ⑨麻薬処方患者における痛みの程度の記載
- ⑩急性心筋梗塞患者におけるアスピリン投与
- ⑪Door-to-Balloon ⑫早期リハビリテーション
- ⑬誤嚥性肺炎患者に対する喉頭ファイバースコープあるいは嚥下造影検査の実施率
- ⑭血糖コントロール ⑮予防的抗菌薬の投与 ⑯服薬指導 ⑰栄養指導
- ⑱手術患者での肺血栓塞栓症予防・発生率 ⑲30日以内の予定外再入院率
- ⑳職員の予防接種率 ㉑高齢者における事前指示(ACP)
- ㉒広域抗菌薬使用時の血液培養 ㉓地域連携パスの使用率

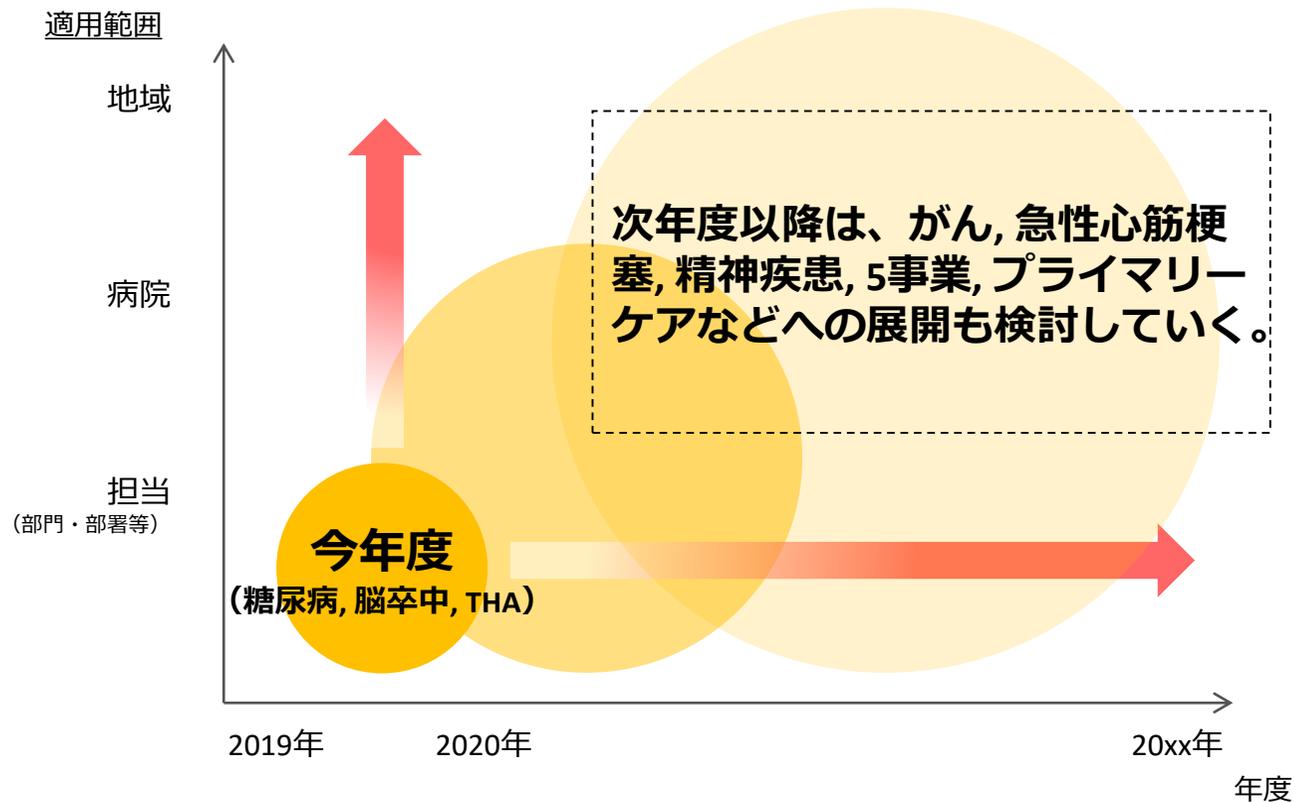
第12回医療情報の提供内容等のあり方に関する検討会
資料抜粋 (厚労省医政局)

今年度の予定 (案)



今後の展開（案）

今年度は医療チームの質改善に焦点を当てたテーマ（“糖尿病”、“脳卒中”、“人工股関節置換術:THA”）に着手し、パイロット（次年度実施予定）での実績を経て他テーマに着手することとしてはどうか。



作業部会での検討状況について (活用支援部会)

委員一覽

委員名	所属	役職	備考
1 荒井 康夫	学校法人北里研究所 北里大学病院 医療支援部 診療情報管理室	課長	
2 猪飼 宏	京都府中丹広域振興局 健康福祉部 中丹西保健所	所長	
3 岩渕 勝好	山形市立病院済生館 呼吸器内科	科長	
4 尾藤 誠司	国立病院機構 東京医療センター 臨床研修科	医長	部会長
5 宮地 正彦	掛川市・袋井市病院企業団立 中東遠総合医療センター	企業長 兼院長	
6 渡辺 昇	ヒューマンウェア・コンサルティング株式会社	代表取締役	アドバイザー
7 本橋 隆子	聖マリアンナ医科大学 予防医学教室	助教	参考人

想定成果物 (総称：改善支援パッケージ)

部会	想定成果物	主な利用者
QI活用 支援	1. 質改善実践マニュアル ～質改善活動の考え方、進め方などを纏めたマニュアル～	病院
	2. 質改善支援運用マニュアル ～質改善活動を支援するために必要な対応マニュアル～	病院団体等事務局
	3. 質改善活動を実践できる人材（チーム）の 養成カリキュラム・プログラム	病院 ／病院団体等事務局
QI標準化	1. テーマに応じた医療の質指標 ～テーマを定期的にモニターする指標の検討～	病院 ／病院団体等事務局
	2. 指標検討・策定ガイドライン ～質改善をモニターするために必要な指標を既存指標から抽出し抽出方法を纏める～	病院 ／病院団体等事務局
	3. 既存指標の整理 ～既存指標の一覧化に向けた整理（Webサイトでの公開）～	病院

成果物作成のイメージ

パイロット実施前後で作成される各種資料

成果物

医療の質指標の選択方法

“計画の立案”の方法及びポイント

“現状分析”の方法及びポイント

ワークシート
(改善活動報告書)

“目標値”の決定及びポイント

“問題点”の洗い出し方法及びポイント

“計画の見直し”の方法及びポイント

結果	①主要評価項目	②副次評価項目	③副次評価項目				
期間	項目	分子	率	項目	分子	率	結果改善割合
2017年～10月	300	88	29.6%	60	20	33.3%	100%
7～9月	300	100	33.5%	60	25	41.7%	130%
10～12月	300	120	40.0%	60	30	50.0%	140%
2018年～3月							



質改善実践マニュアル
質改善支援運用マニュアル
人材(チーム)養成カリキュラム・プログラム



研修会テキスト
(説明会/報告会)



QA集
(パイロット事業参加病院)

成果物作成までの作業の流れ（案）

フェーズ (実施時期・期間)	主な作業内容	方法	成果物
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> 全体スケジュールの作成 パイロット参加における募集要項の作成 説明会/報告会開催に向けた企画内容の検討、作成 改善活動を定期的にモニタリングするためのワークシートの開発 	-	説明会/報告会プログラム ワークシート(手引き含む) 募集要項 など
説明会	<ul style="list-style-type: none"> パイロットの概要説明 指標を活用した質改善活動の意義等の講義 課題の説明（ワークシート記載方法） パイロット参加病院の選定 パイロット参加病院に対する体制整備支援 	WEB等	説明会資料(講義資料)
キックオフMTG	<ul style="list-style-type: none"> 事前課題のレビュー 質改善活動を進めるうえでのポイントについて解説 	集合型研修	記載済みワークシート QA集
モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> 病院が行う質改善活動について定期的なヒアリング (必要に応じた) 病院のサポート 	オンサイト メール 電話等	記載済みワークシート QA集
報告会	<ul style="list-style-type: none"> パイロット病院の事例発表、相互評価/分析 取組を組織全体に展開させるためのポイントについて解説 	集合型研修	記載済みワークシート QA集
フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> 報告会後の活動についてフォローアップを実施 	オンサイト メール 電話等	実践マニュアル 運用マニュアル

パイロット実施部分

質改善実践マニュアルの検討 (骨子案)

以下①～⑧をポイントに、テーマに応じたマニュアルを作成してはどうか。

Part1 (準備フェーズ)

PDCAサイクルを回すために準備段階に必要なポイント等について解説する。

Part2 (実践フェーズ)

PDCAサイクルを円滑に実行するために必要なポイント等について解説する。

定着化

① 総論 (役割・意義)

質改善測定指標の役割と改善の意義について解説

② 体制構築

当該テーマにおける対象者(チーム)の選定及び利害関係者への理解など活動する上での環境を構築するための手引き

③ 現状把握 課題整理

以下についての手引きなど

- ・ 質改善測定指標の設定・現状の測定及び課題の洗出し
- ・ 対象者のディスカッション等による課題の洗出し
- ・ 課題の一覧化及び対応課題の決定

標準化部会検討済みの指標等を利用

④ 目標設定

改善目標を立案するための手引き

⑤ 計画

計画立案に向けた手引き

- ・ 質改善実行計画の策定
- ・ 検証計画の策定
(データ収集・集計方法等)

⑧ 改善

是正対応及びサイクルの実施判定などの手引き

- ・ 改善是正対応
- ・ 当該サイクルの実施判定
(見直し, 継続, 終了)

⑥ 実行

確実な実行に向けた手引き

- ・ 質改善活動の実行

⑦ 検証

成果検証に向けた手引き

- ・ 質改善活動の成果検証
- ・ 策定済み質改善実行計画の検証



管理者へ
報告

定常業務に
組込

議論の主なポイント (活用支援部会)

マニュアルの作成について

- ドラフト版を早急に開発し次年度のパイロットで検証するというアプローチは、従来より取組を進める病院からすると運用の変更となり、負担感が出てしまうことが懸念される。
- 今回は、**パイロットに参加いただく病院の協力を経て完成**をさせていくことではどうか。
- 既に**実績を積み上げている病院団体の事例を参考に作成**することではどうか。

パイロットの運用について

- 参加病院は、**各テーマ10病院程度**がよいのではないか。また**10病院が共に助け合いながらゴールを目指すような仕組み**ができると、参加のメリットにもなるであろう。
- 参加病院を公募で募集する場合、さまざまなバリエーション（応募数、テーマによる偏在など）が予想されるので、方針は事前に検討する必要がある。
- **パイロット終了後も、参加病院をフォローアップできる仕組み**が必要であろう。

その他

- パイロットで適用する指標の一部は、必須の指標として定義してもよいのではないか。
- 病院に課題を洗い出してもらおうアプローチのみならず、事業として課題を提起していくアプローチもあるだろう。
- **組織を活性化させるために医療の質指標を活用**するといった意味合いも本事業にはあるのではないか。

作業部会での検討状況について (標準化部会)

委員一覽

	委員名	所属	役職	備考
1	青木 拓也	京都大学大学院医学研究科 医療疫学分野/地域医療システム学講座	特任助教	
2	鴨打 正浩	九州大学大学院医学研究院 医療経営・管理学講座	教授	
3	國澤 進	京都大学大学院医学研究科 社会医学系専攻 医療経済学分野	准教授	
4	小林 康司	公益社団法人 日本看護協会 医療政策部 看護情報課		
5	林田 賢史	産業医科大学病院 医療情報部	部長	
6	的場 匡亮	昭和大学大学院 保健医療学研究科	講師	部会長
7	矢野 諭	一般社団法人 日本慢性期医療協会	副会長	
8	堀田 聰子	慶応義塾大学大学院 健康マネジメント研究科	教授	アドバイザー
9	宮田 裕章	慶応義塾大学医学部 医療政策・管理学教室	教授	アドバイザー

想定成果物 (総称：改善支援パッケージ)

部会	想定成果物	主な利用者
QI活用 支援	1. 質改善実践マニュアル ～質改善活動の考え方、進め方などを纏めたマニュアル～	病院
	2. 質改善支援運用マニュアル ～質改善活動を支援するために必要な対応マニュアル～	病院団体等事務局
	3. 質改善活動を実践できる人材（チーム）の 養成カリキュラム・プログラム	病院 ／病院団体等事務局
QI標準化	1. テーマに応じた医療の質指標 ～テーマを定期的にモニターする指標の検討～	病院 ／病院団体等事務局
	2. 指標検討・策定ガイドライン ～質改善をモニターするために必要な指標を既存指標から抽出し抽出方法を纏める～	病院 ／病院団体等事務局
	3. 既存指標の整理 ～既存指標の一覧化に向けた整理（Webサイトでの公開）～	病院

作業の流れ (テーマに応じた医療の質指標・既存指標の整理)

既存の指標（共通QIセット、各団体にて定義する指標）及び国内外で利用されている指標を収集・整理・一覧化し、その後、テーマ（糖尿病, 脳卒中, 人工股関節置換術:THA）に関連する指標を抽出しメニュー（カタログ）を作成する。

調査・収集

共通QIセット
(23種36指標)

各団体が定義する指標

その他（国内外）

整理・検討

一覧化に向けて必要な情報の整理を行う（定型フォーマットを整備し、情報の落とし込みを行う）

指標に応じたカテゴリーを定義し、一覧化に向けて必要な情報を付与する（カテゴリー、タグ）

<定型フォーマットイメージ>

団体名	指標			
共通QI	pb1	pb2	...	pb36
A団体	a1	a2	...	aN
B団体	b1	b2	...	bN
C団体	c1	c2	...	cN
海外	ov1	ov2	...	ovN

団体名	年度	カテゴリー	指標名	説明	分子	分母	適用範囲	...
共通QI	2017	検査	pb1	xxxxx	xx	xxx	病院	
共通QI	2017	リハビリ	pb2	xxxxx	xxx	xxxxx	病院	
A団体	2019	投薬	a1	xxxxx	xxxxx	xxxx	病棟	
A団体	2018	その他	a2	xxxxx	xx	xxxx	病棟	
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

カテゴリー

タグ

“カテゴリー”、“タグ”について（案）

当座は医療機関（病院）を対象に検討を進めるため“カテゴリー”は病院医療に馴染む名称とし、医療の質評価の枠組み（Structure, Process, Outcome）を示す分類とする。タグは一覧化した各指標の利便性（検索の容易性など）を高める分類とする。

カテゴリー

医療の質評価の枠組みを示す分類（SPO）	Structure	
	Process	外来, 検査, 入院, 投薬, 手術, 看護・ケア, リハビリテーション, 感染管理, 退院・●●●（検討中）, 緩和ケア, その他
	Outcome（6Ds）	Death（特に予期せぬ死亡や回避できた死亡）, Disease（症状・所見・検査異常の有無）, Disability（社会復帰までの病床期間）, Discomfort（痛み・嘔気・呼吸困難・痒み）, Dissatisfaction（医療への信頼性・満足感）, Debt（費用）

タグ

一覧化した各指標の利便性（検索の容易性など）を高めるための分類	適用範囲	病院, 病棟, 診療所, 訪問看護ST, 診療科など
	OECD CF	有効性, 安全性, 患者中心
	データセット	DPC, サーベイランス（電子カルテなど）, レセプト, その他
	テーマ（疾患等）	糖尿病, 脳卒中, 人工股関節置換術（THA）, 医療安全, プライマリケア, ターミナルケア, 精神科医療, 救急医療, 災害時における医療, へき地の医療, 周産期医療, 小児医療など

テーマに応じた医療の質指標（最終化イメージ）

収集・整理された指標のうち、各テーマ（糖尿病, 脳卒中, 人工股関節置換術:THA）に関連する指標を抽出しグループ化を行う。

一覧化に向け収集・整理された指標プール
(共通QIセット, 各団体が定義する指標, その他)

糖尿病グループ



脳卒中グループ



人工股関節置換術(THA)グループ



テーマに応じた医療の質指標（暫定版）

参考資料1

議論の主なポイント (標準化部会)

既存指標の整理

- “カテゴリー”、“タグ”の付与は、指標のバランスを客観的に把握できるため便利である。
- 診療・ケアにおけるプロセスの流れで指標を分類すれば、より理解が進み利便性も向上するのではないか。
- 医療は一つに集約することが難しい特性があるため、“タグ”は複数分野に跨ることもあるだろう。
- “カテゴリー”は一次元で表現できることが望ましく、“Structure/Process/Outcome”が妥当であろう。

パイロット実施における指標の対象

- どの指標を推奨とすべきかは様々な視点が存在するため短期間での判断は難しいが、方向性として、例えば、アウトカム指標（またはアウトカムに関連するプロセス指標）を推奨とすることもあろう。
- アウトカムに関連するプロセス指標とは、具体的には診療ガイドラインに準じた対応と考えるが、現状では診療ガイドラインと指標の紐づけは課題である。
- 過去実績を調査し改善の余地が大きい指標、そもそも低位であるプロセス指標については検討の対象としてもよいのではないか。
- 改善活動を含めた対応を必須とするのか、データの取得のみを必須とするのかによって対象は異なる。改善活動を含めた対応を必須とすると負担感は大きい。

新たな指標の開発

- 指標を作るには共通の見解を持っていた方が良いと考える。
- 指標を開発する際はマスターのメンテナンスについても考慮する必要がある。
- 諸外国が公表する指標は環境が異なるためそのまますの利用は難しい。